



「自律」

「協働」

「創造」

令和8年7月1日
発行者 大槻 亨
編集 本田 敏行

第4号

私たちが受け継ぐ「大中プライド」とは

校長 大槻 亨

まもなく本格的な夏が到来します。現在、北米の3か国でサッカーワールドカップが開催されており、熱い戦いが繰り広げられています。それぞれの国の代表として、強い「プライド（誇り）」を胸にピッチで戦う選手たちの姿には、誰もが胸を熱くし、深い感動を覚えていることと思います。

ひるがえって、我が大泉中学校にも、先輩方から代々受け継がれてきた「大中（おおちゅう）プライド」があります。1年生は、4月の入学式で在校生代表がこの言葉を口にしていたのを覚えているでしょうか。また、先日の運動会でも、私から「大中プライドの継承」についてお話をしました。

「プライド」とは、誇りをもつということです。つまり「大中プライド」とは、「大泉中学校の生徒として、誇りをもって日々の生活を送る」ということに他なりません。

では、具体的に「誇りをもって生活する」とはどういうことでしょうか。私はその答えを、卒業していった先輩たちから教えてもらいました。

毎年12月頃から、3年生の受験に向けた面接練習を行います。その練習の中で、私はよく「大泉中はどんな学校ですか？」と質問します。すると多くの3年生が、自信をもってこう答えてくれるのです。

「大中プライドを大切にしている学校です」さらに、「大中プライドとは何ですか？」と一歩踏み込んで尋ねると、次のような具体的な言葉が返ってきます。

あ：あいさつ 元気のよいあいさつができること

じ：時間を意識して（守って）生活していること

み：身だしなみを整えている（しっかりしている）こと

こ：言葉遣いを大切にしている（丁寧になっている）こと

し：姿勢（話を聞く姿勢、授業を受ける姿勢、先輩が後輩にお手本を見せる姿勢）を大切にしていること

これら5つの頭文字を合わせたもの、それこそが、大泉中が誇る「あじみこし」です。特別なことではなく、当たり前のことを当たり前、高い意識で行うこと。これこそが私たちの誇るべき伝統です。

いよいよ1学期も、残すところあと2週間余りとなりました。この1学期のまとめとして、今一度この「大中プライド（あじみこし）」を意識してほしいと思っています。特に2・3年生の上級生は、背中で後輩にお手本を示してくれることを期待しています。そして、お互いに支え合い、高め合いながら、全員で素晴らしい1学期の締めくくりを迎えられるよう、日々心掛けてほしいと思います。



オクラ日記 NO. 4

副校長 本田 敏行

昨今、物（道具）を大切に作る心が少しだけ薄くなっているような気がします。何不自由なく手に入る現代では、修理より新しく買い直す傾向があります。

部活動が盛んな本校では、いろいろな活動場所で生徒たちが一生懸命汗を流す姿を見ることができます。部活動によって使用する道具も多岐にわたっており、その道具の一つでも欠けてしまうと満足な練習や試合に臨むことができません。

私が今でも続けているラグビーも他の部活動と同様に道具が必要です。ボールやユニフォームは当然ですが、正直スパイクこそが重要な役目を担っているのです。

特に高校時代の監督からは「スパイクの汚れは一日の練習の証であり、練習終了後にはスパイクに付いた土を自分の手で落として綺麗に下さい。」と常々言い聞かされました。

激しい練習でスパイクは傷み破れて何度もビニールテープでぐるぐるに巻いたものです。修理を重ねていくうちにスパイクが限界を迎えます。その当時を思い出して綴ってみました。

アッパーとソールは完全に剥がれ、内側の繊維が引きちぎれるほど無残に壊れた姿は、一見するとただの「寿命を迎えたスパイク」に過ぎないかもしれません。しかし、泥まみれになった傷だらけのスパイクは一朝一夕でできるものではありません。それぞれの練習に耐えてきた証なのです。

ラグビーの練習には3つの基本があります。

- ① スピードの強弱を付け相手をかかわすステップ
- ② スクラムであと数センチ前へと押し続ける執念
- ③ 幾度となく受けたタックルでもすぐに立ち上がり再び走り出す気迫



これらの練習に一生懸命に取り組んだ成果こそが壊れていくスパイクの姿です。「道具が壊れるのは、持ち主がその限界を超えるほど挑み続けたからだ。そして買い替えてもらった親に感謝下さい。」と当時の監督から言われたことを未だに忘れません。

この「感謝」という言葉の意味を当時の私には到底理解することができていなかったようです。周りの仲間たちより早く走り、相手を交わすステップができ、大きい相手にも低く激しいタックルができていた私に謙虚さは微塵もなかったのでしょう。変な自信から醸し出される態度からは、他者に対する「感謝」の態度や心のこもった発言などできていなかったようです。

ビニールテープで修理した自分のスパイクさえも次の練習に使うための手入れを怠り、粗末に放置していた私の姿を監督は見ていました。「道具を大切にできない者は、試合に臨む前から自分自身に負けており、感謝する気持ちのない者は仲間からの信頼（応援）も得られない。」自分自身の力を超えて、限界に挑戦していく精神の根底には、道具と正面から向き合うことが必要だと思っています。

高校時代、壊れたスパイクを部室で修理している自分の姿を今の自分から見て「お前さ！よく頑張っているじゃないか！」と声をかけてあげたいと思っています。同時に「何事にも感謝することを忘れてはいけませんよ。」と。

皆様からのご意見・ご感想をお待ちしております。よろしくお願いいたします。